新潟歴史資料救済ネットワーク

▲中越地震被災当初の小千谷市T家土蔵の現状

○新潟歴史資料救済ネットワークは、2004年10月23日の新潟県中越大地震をきっかけにして翌月結成された、新潟県内の個人・博物館・図書館・大学のネットワークです。新潟大学に事務局を置き、ゆるやかなネットワークで結びつき情報交換していること、図書館や博物館の積極的な活動が目立つことなどが特徴としてあげられます。

○大規模な活動

中越大地震に際しては、小千谷市Ｔ家土蔵の悉皆保全から活動をスタートし、山古志地区の旧山古志村民俗資料館、旧中学校寄宿舎（文書史料保管場所）の全点保全など大規模な活動に大勢のボランテイアを動員して臨みました。2007年7月16日の新潟県中越沖地震に際しても、刈羽村郷土資料館の収蔵物避難などを大勢のボランティアの手で行いました。

▲2005年5月の山古志村民俗資料館搬出作業

○山古志地区における被災歴史資料の保全活動

2004年10月23日に発生した新潟県中越地方を震源とする地震（中越地震）で被災した歴史資料の救済保全活動です。翌2005年から山古志民俗資料館から歴史資料を救済し、山古志に返した資料の整理保全活動を毎年行っています。具体的には、定期的に文書箱の防虫剤を入れ替えたり、避難所で作成された文書等の整理を行ったりしています。また、活動の一環として山古志地区の見学も行い、歴史と災害について関心を深めるという取り組みを行っています。

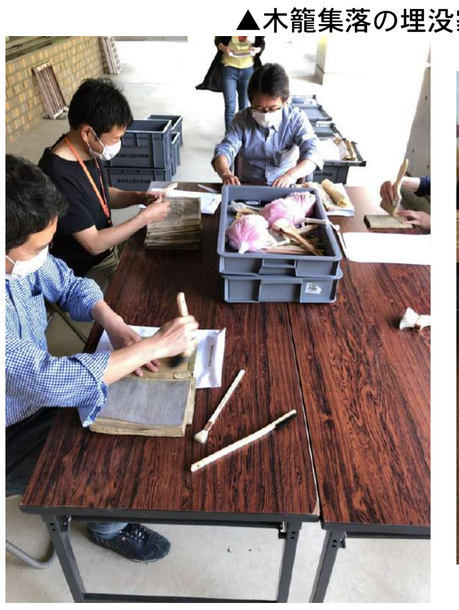
▼旧山古志中学校教寄宿舎の文書史料

保管施設となった旧種苧原小学校での保全作業▲

▲木籠集落の埋没家屋。左：2015年　右：2016年

○避難所資料の整理

中越地震で全戸避難になった旧山古志村の避難所や東日本大震災の際に新潟県長岡市に開設された避難所などにおける避難所資料の整理保全活動を行っています。活動内容としては、主に避難所資料の目録作成を行っています。また、この活動やこの資料に関する調査研究の成果を冊子にまとめ、刊行しています。



▲雲洞庵文書のクリーニング作業

▲避難所資料の目録作成作業

○新潟・福島豪雨の水損資料の保全活動

2011年7月の新潟・福島豪雨で被災した新潟県南魚沼市の雲洞庵という曹洞宗の大寺院が保管していた資料の保全活動です。活動は新潟県立歴史博物館や長岡市中央図書館文書資料室と一緒に活動を行っています。被災資料のうち、汚れのひどいものは外でクリーニングを行い、室内では文書の目録作成作業を行っています。

▲2019年山形県沖地震の村上市府屋地区における被害状況

左：遠方海沿いのみにブルーシート　　右：回転・倒壊した石地蔵

○設立１５年を経て

新潟県では2019年の山形県沖地震も併せて県内で震度6以上の震災をこの15年で3度、大規模な水害も２度経験しています。中越大地震の保全資料の整理があらかたついた現在、今後のさらなる災害に向けて予防ネット的活動も求められています。

Webサイト http://nrescue.s1006.xrea.com/
連絡先（事務局）新潟大学人文学部原研究室
hara@human.niigata-u.ac.jp